

西海市の精霊流し

盆前に、亡くなられた人の遺族が故人の霊を弔うために船を曳きながら、街中を練り歩く長崎の伝統行事で、毎年8月15日に行われます。故人を弔うために造られた精霊舟を曳きながら鳴り響く爆竹の中で行われます。

面高郷の精霊流し

昔は畑で採れた麦藁で親子兄弟は言うまでもなく親戚の人達にもて手つだってもらい現在より小さい約1メートル程の麦藁の精霊船を作っていましたが現在は作る麦藁もなく、船大工さんに頼み作ってもらいます。親戚の人々と一緒に作っていた頃は、地区の絆は強かったと思われます。漁師さんから借りた船に精霊船を乗せて海に出ます。生前好んで飲食していた物と仏様に供えていた物（お神酒・お煮しめ・お菓子・花など）を乗せ、大きな堤灯を飾ります。精霊船の上では、花火を上げ故人をなつかしく思いおこしながら精霊船は進んでいきます。

